



SS学院 塾通信 11月

2023年11月吉日



中国由来の、「天高く馬肥ゆる秋」・・・この言葉を聞くと、非常にすがすがしい気分になります。ちょっとこの意味を調べてみると、秋は空が澄み渡って高く見え、馬も食欲が増して肥えるような収穫の季節とこのことだそうですが、本当の意味は、「秋になると肥えてたくましく育った馬に乗って敵(匈奴)が攻め込んで来るから警戒せよ」との物騒な意味だ

そうです。やはり前者の方がロマンチックな気持ちにさせてくれる言葉として受け止めたいですね。ところで、昔と異なり温暖化は確実に進んでいるように思います。ある記事の中に、「5年前の冬に和歌山県紀南地方で初めて確認された南方系の野鳥シログシラ(ヒヨドリ科)が、田辺市や上富田町で定着して生息数を増やし、鳴き声を響かせている」といった記述がありました。日本の歴史の中でこのようなことは初めてだそうです。今後もこのような温暖化が進めば、私たちの生活にどのような影響を与えるのか不安になります。

さて、11月ともなると、高校入試までの期間は非常に短くなります。当然、生徒は志望校の合格を目指して悔いのないように家庭においても最大の努力をしているかと思います。また、この時期になって入試勉強を始めていないようでは、入試対策を組み入れて努力している生徒に引き離されたり、追い越されたりすることは確実です。一般論ですが、中学3年生の実力テストの成績は低学年時の努力に大きく影響を受けます。つまり、履修内容の何パーセントを理解して中学3年生になったのか？そして理解した何パーセントが定着できているか？が中学3年生の学力に結びつくのです。簡単に言えば、低学年時に勉強不足で $1+1=2$ を理解しないまま中学3年生になった生徒は、3年生時に $2+2=$ の学習をしても理解できないはずですが、このようなことが全教科を通して同じように理解せずに中学3年生になったとしたら、テスト範囲のない実力テストの成績は定期考査(中間・期末)よりはるかに低い結果となりますが、低学年時から優秀な成績を残してきた生徒は実力テストでも成績を大きく低下させることはありません。このようなことを言えば、低学年時に学力が芳しくなかった生徒はやる気をなくすかと思いますが、改善策はあります。個々の実態(主に努力不足)を反省し、そして今からその改善策(努力する)を実行することが現状の学力を引き上げる特効薬です。

努力による改善策として、入試用の問題集を5教科購入して、得手不得手に関係なく、1日に2教科ずつ消化することです。このときに、理系教科(数学・理科)と文系教科(英語・国語・社会)を交互に行ってください。どちらかに傾くと苦手教科を克服できません。入試までの期間を考えれば、1教科につき1時間半の学習量が必要でしょう。つまり、1日に2教科3時間の家庭学習を続けるのです。

問題集を解くにあたって重要なことは、問題集に取り組む時は、必ず問題集の解答を横において解くこと(問題集に解答を書き込まないこと)→1問解くたびに解答を見て正解なら次に進む→もし間違った解答をしていたら正しい解答を覚えて先へ進む。この時に解答は覚えたが解き方が分からないといったことも多々あるかと思いますが、それは気にしなくても構わない。とにかく解答を覚えて先へ進む。

* 毎日、このような学習方法を繰り返し行うことで実際に解答できるようになります。ただし、一冊の問題集を何度も繰り返して解くことが大切です。

* 中学校の定期テストは良い結果を残せるが、実力テストになると一気に低下するといった悩みを持つ生徒は中学生の約95%に及びます。特に優秀な生徒以外は誰でも同じです。非常に重要な実力テストの得点が下がる理由を説明すると、ご承知のように中学校で実施されるテスト問題は学習指導を行っている中学校の教師が作成するため、生徒はそのようなテストの設問形式(問題のパターン)に慣れていることで実力以上の成績を残します。ところがテスト範囲がなく設問形式も異なる実力テストはテスト範囲の決まった定期考査(中間・期末テスト)のような成績は残せないのです。以前にも次のような例をあげましたが、再度、説明しますと、中学校の英語の授業で現在完了形を習いますよね。たとえば、中学校で、「私は10年間大阪に住んでいます」は、現在完了形で「I have lived in Osaka for 10 years」ですと教えられたとします。もし、定期考査(中間・期末テスト)でこの現在完了形の「私は10年間大阪に住んでいます」を英語に書き換えなさいと出題されたとしたら、学校で習っているのだから解答できる生徒は非常に多いはずですが、ところが定期考査と異なり、テスト範囲のない業者テストや入試問題の中に、「私は大阪に来て10年になる」を英語に書き換えなさい、と出題されたとします。よく考えると、「私は10年間大阪に住んでいます」・「私は大阪に来て10年になる」の2文の意味は同じです。ところが設問形式(この場合、表現方法)を変えると解答できる生徒は一気に少なくなります。しかし、入試用の問題集を消化している生徒なら、このような設問形式(表現)が異なっても二文は同じ意味だから現在完了形で「I have lived in Osaka for 10 years」と解答すれば良いと分かる

のです。つまり、**実力テストで成績が下がる原因は、設問形式に慣れていないからです。その解決方法は入試用の問題集を解くことです。ぜひ入試までの期間、入試用の問題集を消化してください。**

とにかく諦めない。そして頑張れば、1時間の学習で10のうち5程度しか理解できなくても、1週間、1カ月と日が経つにつれて5が6に6が7になることは卒塾した生徒の結果から断言できます。実際に、過去の学習不足の影響を受けて学力が向上しないと悩んで中学3年生の夏以降に入塾された生徒が、入試までの短期間の努力で満足のできる高校に進学しているケースは多いのです。今春の入試においても和歌山県のSS学院2校では公立高校は全員合格。また、非常に競争率が高くて不合格になる生徒が多い大阪府のSS学院2校からも私立高校は全員合格。そして公立高校の合格率は96% (塾の中ではトップクラスの結果) と驚異的な結果を残しています。ご承知のように、生徒をテストで選抜しない当塾には学力の異なる生徒が多数入塾されます。その結果であることを考えれば、たとえ学力に悩む生徒であっても諦めずに努力さえすれば学力は向上するということを証明してくれる例だと言えます。ここで生徒たちに、中間テストや期末テストの勉強は何日前から行っているかを思い出してほしいと思います。おそらく、優秀な生徒は2週間～10日前からテスト勉強を始めるでしょうが、彼ら以外の生徒は長くても1週間程度ではないかと思います。しかも、真剣に取り組むのはテストの2日前ぐらいの生徒が多いはず。その程度のテスト勉強でも現状の成績を残せるのだから、少なくとも入試まで約3か月も残されている現在、今から真剣に取り組む気さえあれば、今の学力では合格の可能性の低い高校に進学できる学力をつけることも不可能ではないのです。勿論、選抜塾のように、不合格を覚悟で「～高校を受験するように」といったアドバイスを当塾は行いません。受験校の決定は学力だけではなく家庭の事情なども含めて総合的に判断して決めるべきかだと思います。いずれにしても努力の先に良い結果があることは否めない事実ですから、努力を欠かさないでほしいと思います。また、その努力は高校に進学してから、高校で良い結果を残す基礎となり、その先に大学に進学する生徒も効果を得られるのです。中学校には、まだ入試勉強(市販の問題集の消化が最も効果的な学習となる)を始めていない生徒は多いと思いますが、当塾で取り組んでいない生徒はすぐに実行してほしいと思います。特に、これまで勉強不足の生徒にアドバイスしたいことは、入試勉強を始めて理解できないことが多くあったとしても、最初から完璧な結果を求める必要はないということです。これまであやふやに理解していたことを確実に理解し、

分からないところは塾で質問するなどの努力を続けることで必ず学力は向上します。ぜひ残りの日々を無駄にしないように頑張ってください。

最後に、【学校での進路相談での対応に関して】

○公立高校

1回目の懇談で高校を決める必要はありません。競争率や個々の実力を照らし合わせて決めることも可能です。また、学校で1回目の懇談時に教師から受験校を聞かれた場合、A高校を受験したいと思っているのなら、1ランク上のB高校名を希望とっておく方が良いかと思えます。

○私立高校

当塾が生徒の希望する私立高校に事前相談をかけます。専願者は塾の懇談時(別紙の詳細を参照)に申し出てください。(注)非常に少ないとはいえ、事前相談を受けつけない私立高校もあります。

中学校には入試を意識して頑張っている生徒が非常に少ないため、今から真剣に努力すれば上位の生徒に追いつき追い抜くことが可能なのです。ぜひ体調に配慮しながら頑張ってください。当塾の教師陣も可能な限りバックアップします。